



福井県家畜保健衛生所

〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1

Tel : 0776-54-5104 Fax : 0776-54-5966

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kaho/index.html>

定期報告書の提出をお願いします

家畜伝染病予防法に基づき、家畜所有者は毎年2月1日時点の家畜の飼養頭羽数および飼養衛生管理状況等を県知事に報告する必要があります。令和4年の定期報告書の様式は、昨年とは若干、変更となっています。詳細は、同封した書類に記載してありますので、報告期限までに当所あて速やかに提出(郵送・FAXでも可)してください。

家畜所有者の区分		報告期限
牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚およびいのししの所有者		4月15日
鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥および七面鳥の所有者		6月15日
県内の飼養頭羽数による「大規模」、「小規模」および「中規模」所有者の区分		
大規模	小規模	中規模
鶏：10万羽以上	牛・馬：1頭 めん羊・山羊・豚：6頭未満 鶏：100羽未満	左記以外の農場すべて
上記の小規模所有者以外の方は、農場の平面図、飼養衛生管理基準の遵守等すべてを提出		

破傷風の発生について

破傷風とは、破傷風菌 (*Clostridium tetani*) による人獣共通の急性感染症です。

今年度、県内の牛農家において、去勢（リング去勢によるすり傷）部位から感染したと考えられる症例が発生しました。

本菌は、土壌、水中など環境中に広く分布し、芽胞を作る特徴的なクロストリジウム属菌の一つであり、動物の糞便からも分離されます。感染部位で増殖し、神経毒素を産生します。この毒素により全身の筋肉の強直性痙攣が起き、呼吸困難により死に至ります。家畜ではこれまでに牛、水牛、馬および鹿で本病が確認されており、牛は馬に次ぐ高い感受性を示し、国内でも散発的に発生が確認されています。

疑わしい場合は、創傷部位から直接塗抹標本を作成し、太鼓バチ状の芽胞菌、または遺伝子検査による毒素遺伝子を検出することにより診断します。

破傷風が発症した場合には治療は困難となります。多くの症例は、観血去勢や分娩と関連し、単発で発生します。家畜から家畜へ続発する感染症ではありませんが、一度発生した農場では、状況に応じてワクチン接種による予防も必要です。

山羊における肝蛭症の発生について

肝蛭症は、県内でも一部の地域を除き、ほとんど発生がみられなくなりました。しかし、県内の山羊飼養農家2戸の死亡した山羊で本症が確認されました。いずれも、春から晩秋にかけて水田に放牧する形態をとっていました。

肝蛭は木の葉の形をしており、大きさは2～5cmで、牛、山羊、めん羊、豚、鹿等の肝臓内の胆管に寄生し、削瘦、貧血などの症状を示し、多くは慢性化します。しかし、感染が重度になると死亡に至ります。

感染様式としては、肝蛭の虫卵が糞便とともに排泄されます。孵化した幼虫が水田や河川に生息するヒメモノアラガイに寄生します。貝の中で成長した幼虫は、稲や野草に付着し、それを食べることにより肝蛭に感染することとなります。

本来であれば、牛または野生鹿が終宿主となり、その中間宿主であるヒメモノアラガイ（巻貝）の間で感染を繰り返していますが、今回の山羊放牧地周辺には牛が飼われていないので、野生鹿とヒメモノアラガイの間で感染が繰り返されているところに、山羊が放牧されたことにより、山羊とヒメモノアラガイの間で感染が成立したのではないかと推察されました。

水田放牧を継続的に実施する場合には、放牧する牛・山羊等への定期的な駆虫薬の



投与が重要であり、まれに人にも感染する人獣共通の感染症の為、注意が必要です。

高病原性鳥インフルエンザの発生状況

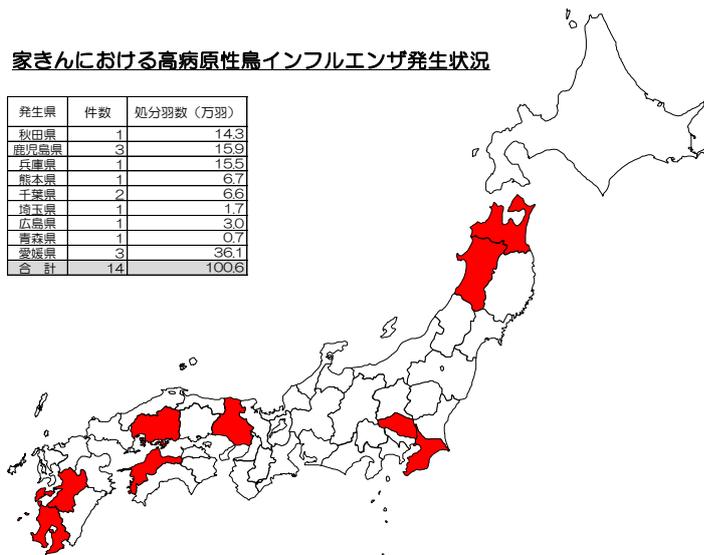
昨年10月末、韓国で捕獲された野鳥（オシドリ）が高病原性鳥インフルエンザに感染していたことが確認され、現在もアジアや欧州地域において、野鳥および家きんで感染が継続しています。

国内においては、今季、これまでに9県14農場で発生が報告され、100万羽を超える鶏が殺処分されました。発生養鶏場の周辺には、原因ウイルスを持っているとされるカモ類が生息する「池」や「河川」が多く確認されています。このため、カモ類が大陸へ旅立つ5月頃まで、まだまだ予断を許さない状況が続きます。

ウイルスを鶏舎内に人または物品により持ち込まない、さらに小動物等により持ち込ませないよう、飼養衛生管理（自主点検7項目）の遵守徹底を引き続きお願いします。

家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ発生状況

発生県	件数	処分羽数（万羽）
秋田県	1	14.3
鹿児島県	3	15.9
兵庫県	1	15.9
熊本県	1	6.7
千葉県	2	6.6
埼玉県	1	1.7
広島県	1	3.0
青森県	1	0.7
愛媛県	3	36.1
合計	14	100.6



豚熱（CSF）の発生状況

豚熱は、本年度7県（群馬県・三重県・栃木県・山梨県・神奈川県・滋賀県・宮城県）13養豚場での発生が確認されています。また、いまだに野生いのししの感染も続いています。本県での野生いのししにおける検査を開始後、総検査頭数は1596頭、うち陽性頭数170頭であり、感染率は、約10.7%です。また、本年度に入ってから野生イノシシの感染率にも差がないことから、野生いのししの間で豚熱ウイルスが保持されていることが推察されています。



本年度発生があった農場は、全て、ワクチンが接種されている養豚場で、離乳後のワクチン接種を待つ子豚における発生でした。母豚にはあらかじめワクチンが接種されていますが、子豚へのワクチン接種前には、母乳を介した免疫が既に低い状態である為、豚舎内にウイルスが侵入すると、ワクチンを接種していても完全に発生を抑え込むことはできないと考えられます。

したがって、舎内にウイルスを持ち込まない・持ち込ませない管理が重要となりま

すので、養豚・愛玩豚を飼養されている方々は、日頃からの飼養衛生管理基準（自主点検7項目）の遵守の徹底と発生予防を引き続きお願いします。

石灰消毒の利用について

一般的に畜産分野の消毒に用いられる石灰消毒には、消石灰、生石灰およびドロマイト石灰があります。いずれも水と反応することにより、強アルカリ性となり、消毒効果が期待されます。ただし、即効的に消毒効果が認められるものではなく、ゆっくりその効果を示す、いわゆる「待ち受け方式」として利用されています。農場内へ病原体を持ち込まないよう、今一度、下記に示すとおり使い方を参考にしてください。

なお、消石灰が水の存在下で示す強アルカリ性は、病原体だけでなく人に対しても危険です。飛散により眼に多量に入った場合には失明の恐れもあるため、ゴーグル等をして散布するよう注意してください。



畜産分野で用いられる石灰一覧

種類	成分	特徴
消石灰	水酸化カルシウム	○畜産分野でよく使われる ○水に溶けにくい ○安価
生石灰	酸化カルシウム	○消石灰に比べ水に溶けやすい ○水と反応すると発熱し、高温となる
ドロマイト石灰	水酸化カルシウム 水酸化マグネシウム	○水に溶けやすい ○水と反応しても発熱しない ○消石灰に比べ高価